

「真実『真理』に気付きを得る」

神 示

日々「神示」に触れて「生きる」心を持つ

そこに 自然と「運命」に導かれた 心の動きが取れる

病気 事故・災難に遭うこともなく

「夢」ある日々が流れてゆく

信者に申す

人生に目標がなく

人の思いにのまれ 流されて行く姿に 気付くべし

時代は 人類が思い描いたとおりにならない

人間は

時代の流れの中で 心を生かせた人が 社会を導く

神が示す「真理」に悟りを深めることで

人は「運命」の力に守られ 「夢」が持てる

この世の真実「真理」に気付いて

「運命」を枯らさぬ心が必要

時代は どこへ向かって流れているのか

「神示」を読むことで 分かるはず

——神の手の中 人間は皆

運命の力を世に奉仕して「生きる」道に生まれる——

この一言「真理」に 今こそ気付いて

「教え」を人生の支えに生きるべし

心の迷いは治まり

社会の流れに乗って

「夢」ある人生が始まって行く

時代の力を受けて 万物の命が生きている

社会で起きている現実、真実を、神の教え、真理で見詰めることを、神は促されています。そこに、正誤が見えて、望ましい生き方がつかめるからです。

神示に沿って生きようとする心があれば、自然と運命に重なる心の動きが取れるようになります。教えを守る努力にこそ、守護が得られて、不思議と病気もなければ、事故、災難もなく、毎日生きる力がみなぎる日々が送れるのです。

世の中には、人生に正しい目標が持たず、周りの言葉にのまれ、流される人々が数知れません。現代は、自分の思いばかり強く訴える人もいれば、根拠もない中で無責任なことを言う人もいます。

どれほど考えを通そうとしても、時代の流れを思うようにはできません。その時代の変化に合わせ、自らの力を生かすところに、社会の役に立てるのです。

神が説かれる教えを身に付けると、人は与えられた運命の力に守られ、意欲を持って生きられます。人に何を言われても、心が乱れることはありません。です

から、この世の仕組み、真理をつかみ、運命を枯らさない努力が必要です。

今、時代は、どこへ向かって変化しているのか、それは神示を読めば分かります。違う方向に進んだものを、あるべき調和の取れた状態へ戻そうと、時代の運命が働いているのです。

神から授けられた世に役立つ運命は、その力で社会に奉仕するほど、生きる喜びを味わえるように仕組まれています。これは不変の真理であり、そこに気付く、教えを支えに生きるのです。

すると、もろもろの迷いが消え、社会の流れ、変化に乗って、力のみなぎる人生が歩めます。分、器を越え、無理に思いを遂げようとすることはありません。

生あるもの全てが、時代の運命の力を受けて生きています。人、物全てに、この世に存在する意味があるのです。

ですから、自らの生かされる意味を知り、置かれた環境に順応して、良さを生かしていきましょう。神の教え、真理に生きれば、それは必ずかなうのです。

「真実『真理』に気付きを得る」

神 示

悔いなき人生を手にするため

人間は 「真理」に気付きを得る生活が必要

人類は この世の仕組みを知らず

人たる人の心を忘れて生きている

人生に 悩み 迷い 苦しみを

自ら深める因^姿が ここにある

信者に申す

「教え」に生きる努力をする

自然と「心」安定し 不安に迷う思いは起こらない

社会の姿^{真実}も見えてきて

人々^{人々}との出会いに「心」のまれることがない

「運命」に重なる「人生」が始まり

「心」^{人生}支える軸が持てている

人間は 知識 経験を軸に 努力を日々^{にちじち}重ねても

夢ある人生は歩めない

「実体」が心を迷わせ

「運命」に重なる「人生」を枯らしてしまう

今の社会^{今日}に 「真理」は薄い

政治 経済に 生活^{社会}の支え^夢を求め人々^{人々}は

ますます迷いを深め 教育 医療も崩壊して行く

信者は 「教え」を学び

「真理」を「心」^{人生}の支えに生きる

「運命」に重なる「人生」は 必ず栄える

教えを通して社会の現実を見ると、それが理にかなうことなのか、道理から外れることなのか分かります。人生を悔いのないものとするには、物事の道理、真理にかなう生き方が必要です。

ところが、多くの人々は、この世の仕組みを知らず、人としてあるべき心も欠いているのが現実です。人生に悩み、迷い、苦しみを抱える原因が、ここにありません。道を外すから、自ら悩みを生み出し、苦しい思いをするのです。

この世の仕組み、道理が分かれば、自分に与えられた運命、分、器を越えて求めることはないでしょう。ぜいたくを言えば切りがありません。今に満足、きょうに感謝する心で生きるのです。

どうしても欠かせないのが、神示に触れ、教えに沿って生きる努力を重ねることです。すると、自然と心が安定し、不安に迷う思いはなくなります。

社会の現実も見えて、周りの人々との関わりで悩むこともなくなるでしょう。与えられた運命に重なる人生が歩め、自

身の良さを生かしていけるのです。

教えが身に付くと、正しく生きる心の軸ができ、周りから何を言われても、人は人、自分は自分と、振り回されなくなります。心が迷わなくなります。

多くの人々は、知識、経験を頼って物事を考えます。しかし、知識、経験を軸に努力しても、力を生かす人生は歩けません。かえって、持って生まれた性格、物の捉え方、実体が心を迷わせ、運命に重なる心の動きを遮ります。

現代は、真理、物事の道理を意識する心が薄いのです。政治、経済、どの世界も、目の前の事象に対応することばかりに目を向けます。それでは、次々と問題を繰り返していくだけです。

今必要なのは、教えを通して道理にかなう生き方を身に付けていくことです。そこに、与えられた運命に重なる生き方ができてきます。悔いのない人生を歩み抜き、親から子へ、子から孫へと心の道がつながっていきます。そして、その家は栄えていくのです。